

東京鹿瀬会

第29回 新年祝賀会

日時：令和5年2月5日(日)
場所：渋谷エクセルホテル東急

会長 坂田純一

2月5日(日)に新型コロナウイルスの影響で2年ぶりの実開催となった。

阿賀町から神田町長、澤野県議を始め7名の方が参加された。

県人会では鈴木輝雄副会長、財団佐藤永久理事長を始め、近隣郷人会の皆様も含めて48名の参加となった。

冒頭昨年8月に亡くなられた初代会長の佐伯益一さん、令和3年12月に亡くなられた元会計の田辺幸雄さんの黙祷が始まる。全員で「ふるさと」を合唱。

阿賀町神田一秋町長、斎藤秀雄議長、県人会鈴木副会長、財団佐藤理事長からご挨拶を頂いた。

この度ご子息に後を託した澤野修県議の乾杯の音頭で祝宴が始まる。

キングレコードの舞さくらさんの歌謡ショーで盛り上がり、会場内はお



互いのテーブルを行き交う姿が多く見られた。抽選会は相馬幹事長の司会進行で吉池さんの海産物が会員のもとに届けられた。

最後に星野憲三副会長の挨拶でお開きとなった。

東京鹿瀬会としてはこ

れが最後の会合となります。長い間関係各方面の方々には大変お世話になりました。この誌面をお借りして深く感謝申し上げます。

令和5年4月からは津川、三川、上川会と一緒になって東京阿賀町会(仮称)として新たな第一歩を踏み出します。

東京阿賀町会に、引き続きご厚情を賜わりたく、切にお願い申し上げます。

(会長 坂田純一)

城下町新発田会・ふるさと訪問紀行

会長：小野悦男

城下町新発田会では、5月10～11日でふるさと訪問を実施した。本来は、一昨年に会創立20周年を記念して行う予定だったが、コロナ禍のため延びていたもの。当日の参加者は11名。JR目白駅からの出発バスで高速道路を一路新潟へ。

新発田にお帰りなさい

最初の訪問先は、新発田市役所。伊藤純一副市長をはじめ、市民まちづくり支援課の皆さんから心のこもった歓迎を受け、ふるさとの山「三王子岳」を望む会議室で懇談。伊藤副市長は「ようこそ新発田へ、お帰りなさい。この市庁舎ができて6年になる。まちは昔と比べると様変わりしているが、この商店街を何とか活性化したいの思いで、取り組んでいる。市民まちづくり支援課は、地域の団結を促し、一緒になっ

てまちを創っていくことがんばっている。城下町新発田会の皆さんには、ふるさと新発田市に関心を持っていただき、また支援を賜っている。城下町新発田会がいつそう発展するよう応援していきたい。この2日間、ふるさと新発田を満喫していただきたい」と、激励の言葉をいただいた。

重厚な明治建築に圧倒される訪問先は、今年4月29日にオープンしたばかりの「蔵春閣」。これは、東京新潟県人会の創設者である大倉喜八郎翁が、東京の向島に明治12年に別邸として建築した。大倉文化財団が新発田市に寄贈し、大倉翁ゆかりの東公園に移築された。勇壮な外観、絢爛豪華な内装や調度品に圧倒される。政財界の大物や外国からの賓客をもてなしたといわれる「迎

賓館」を堪能した。当日の宿は、月岡温泉・白玉の湯「泉慶」。地元から賛助会員など11名が合流し、再会に旧交を温めた。

274年続いた新発田藩見学。城址公園には、城下町新発田会創設10周年記念として植えた桜の木が大きく育っている。新発田城は、新発田藩主・溝口侯の城。明治5年の廃城令で、その多くが取り壊されたが、その後の復元事業で、平成7年に三階櫓と辰巳櫓が完成した。最後の藩主溝口直正(12代)は、廃藩置県まで藩知事を務めている。関ヶ原の戦いや戊辰戦争など多くの困難を乗り越え、外様大名であった歴代藩主が、274年間領民を安寧に導いたといわれる。

